

●皇帝ペンギン、社会福祉法人とみのはら福祉会堤理事登場

MC：本日午後5時台は集まれファーストペンギン ニュービジネス・ザ・ネクストステップをお送りいたします。この番組では、大村市産業支援センターセンター長の宮本美沙様とゲストの方に企業経営について語り合っていただく番組です。

ファーストペンギンですけれども、本日のゲストの方はファーストペンギンという感じでよろしかったですかね？

宮本：新しいことにチャレンジしてダイブするっていう常にチャレンジ精神を持って事業に取り組まれている意味ではそうなんですけど、とはいえ、経営に関してはもう大先輩ということを見ると、今日は**皇帝ペンギン**に来ていただきましたという感じではないかなあと私は思っています。これをセンターの中で言ったらみんな確かにそうだ！ということで、みんな大ウケしていました。

MC：改めまして、皇帝ペンギン様を…(笑)本日のおお客様ですね、社会福祉法人とみのはら福祉会の理事でいらっしゃいます、堤康弘様です。こんにちは、よろしくお願いいたします。

堤：はい、こんにちは、よろしくお願いいたします。

MC：宮本センター長、今日は堤さんをご紹介したいということですかね～

宮本：そうです、非常によくしていただいておりますし、センターともコラボした形でセミナーを開催させていただいています。改めて事業のこと、どういうふうな経緯かということと、堤様の経験もお話いただけるとお伺いしたいなっていう思いもあって、今日はお願いしました。

MC：お忙しい中ありがとうございます。

堤：ありがとうございます。

MC：では、堤様の方から自己紹介してもらっちゃっていいですか？

堤：いや、いいんですか？適当に喋っちゃっていいのかなってなんかすいません(笑)

宮本：私がいいですっていうことはないんですけど(笑)

堤：いやいや、もう先ほどからも皇帝ペンギンとか言われていますが、すいません(笑) 皇帝ペンギン堤康弘でございます、よろしくお願いいたします。いやしかし、このタイミングで皇帝ペンギンって言っちゃうと福山雅治ファンの皆様から相当怒られそうなんです(笑)すいません。皇帝ペンギンではございませんので、本当によちよち歩きでお仕事毎日やらせていただいている 社会福祉法人とみのはら福祉会の堤康弘と申します。仕事の内容は、保育

園とかこども園とか、あと介護施設の運営をしております。

主に大村市内の竹松富の原地区で”認定こども園たんぼぼ園”とか、”竹松こども園”とか”保育こども園”施設ですね、あと介護関係が”たんぼぼの家”とか”たんぼぼの丘”とかたんぼぼの何とかがってというのがつきすぎて、みんなどこがどこかわからないってよく言われるんで、最近ちょっとたんぼぼシリーズから外れてはいるんですけどね。今もうネーミングはうちの職員に任せていて、”スイスイ”とか”タッチ”とか、ちょっとよくわからない名前が増えているんですけど、そんな感じでやっています。センター長よろしく願いたします。

宮本：よろしく願いたします。ところで、なぜ“たんぼぼ”ですか？

堤：そこですか。たんぼぼはですね、実は、創業はうちの父なんですけど、もっと言えばうちの母なのかな。うちの母がろう学校でずっと教員をやってて、自分の理念の中でたんぼぼの花が好きで、何事も地域の地面にしっかり根を張って、いろんな子供たちが勉強をしたり、また教育の中でたんぼぼの綿毛のように飛んで行ってほしい、愛情・愛の教をを広げていきたいな！という思いとタンポポが好きからこの名前になりました。高校の教員だった家の父が、そうそう父も教員だったんですけど…

宮本：お父様お母様お二人とも？

堤：そうです。教員家庭でしたが、父がどうも昔から事業をしてみたいってというのがあって…

宮本：学校の先生だったけれど？

堤：そういうことをなんか常々言っていたんです、ド素人なんですけどね。他にも自分勝手に言っていたのは、ほか弁のアイディアは俺の方が先に考えたってずっと何か言っていましたよ。何いってんだこいつって思ったんですけど(笑)、でも50歳の歳に父は教員を辞めて、事業を始めることになったんです。

宮本：学校の先生は高校？中学？ですか。

堤：最終諫早高校で終わったかな、確か。社会の教員だったです。

宮本：え～、しかもそのご経験を積まれて、さあこれからっていう50歳のときに…。

堤：そう、今私が51なので何かやれ、って言われたらできないんで、今考えたら親父すごかったなって、まだ生きているんですけど。

宮本：まさしくファーストペンギンがタイプしたって感じですね。

堤：ただ、うちの堤家はですね、この大村駅の裏の武部が実家なんですけど、うちの爺ちゃんも大村高校の事務長で、うちの婆ちゃんも向陽高校で手芸の先生、それに学校教員家庭の叔父さんも日大高の教員なので、商売をするのは大反対だったんです、みんな。

宮本：そうですね…

堤：そうなんですよ

宮本：その時に堤さんは学生だったんですか？

堤：まだ20…3、4で、司法書士になりたいと思って関西の方に行ったんですけど、いろいろとこっちが大変で、ちょっと手伝ってくれぐらいの感じで戻ってきました。

宮本：なるほど…